

# 平成 30 年度 試行調査 (プレテスト) 設問別分析 日本史 B

大学入試センターホームページ (「問題のねらい」等は下記からご覧ください。)

[https://www.dnc.ac.jp/daigakunyugakukibousyagakuryokuhyoka\\_test/pre-test\\_h30\\_1111.html](https://www.dnc.ac.jp/daigakunyugakukibousyagakuryokuhyoka_test/pre-test_h30_1111.html)

試験時間 : 60 分

※設問数は「正しくマークしたときに得点が与えられるまとまり」としてカウントしています。

大問番号 (配点)	分野	設問数 ※	テーマ・出典	分析コメント
第 1 問 ( 18 )	総合問題	6	開発・災害と人々との関係史	問 1 は設定した主題を答えさせる設問であるが、年表乙が「災害」を主題としていることは明白であり、それで正解が出る。問 2 は年表の時期に入る出来事を判断させる設問。問 3 はカードを使った設問だが、カードにする出題形式の意味があるのかは疑問である。問 4 は史料読解を、問 5 は 2 つの史料とグラフの読解を要する設問。問 6 は年代配列の形式であるが、a と b の判断がやや難しい。a は抽象的であるため、「中世」であるとの判断が、b は現代の環境アセスメントのこととの判断が生徒には難しかったと思われる。c ~ e だけでは一つには絞り込めないため、やや難の設問である。総じて単純に歴史知識を問う問題は少なく、思考力・判断力を問う姿勢がみられる。
第 2 問 ( 15 )	古代政治・社会	5	古代の官道制度	問 1 ~ 4 のいずれも、資史料を利用しており、多くは読解力を求めている。ただ、問 3 は情報 Y から事実 a を選ばせるのだが、複数解答にした結果、かえって強引な解釈を求める設問になっているように思われる。その点を除けば、単純に歴史知識を問う問題は少なく、思考力・判断力を問う姿勢がみられる。
第 3 問 ( 15 )	中世総合問題	5	中世における外的影響と社会の変化	問 1 は図版を利用した設問であるが、正解の②は明白である。問 2 は生徒のレポートに対する反論の成否を、問 4 は一つの時代に対する異なる評価を示し根拠を問うている。いずれも目新しい設定の設問であり、多面的・多角的に考察する姿勢を意識している。問 3 は史料の読解力を要する設問であり、全体に思考力・判断力を問う姿勢がみられる。
第 4 問 ( 15 )	近世総合問題	5	近世社会における資料とその役割	問 1 ~ 4 のいずれも、資史料を利用しており、多くは読解力を求めている。問 3 は近世絵図を利用した設問であるが、「(注)」が大きなヒントになっている。問 4 は資料の内容と関係する政策を選ばせる設問であるが、資料内容 (荻生徂徠の意見) と足高の制とは、直接関係はないため、戸惑ったのではないだろうか。全体には、単純に歴史知識を問う問題は少なく、思考力・判断力を問う姿勢がみられる。
第 5 問 ( 16 )	近代経済・外交	6	近代日本の経済・国際関係	問 1 は松方財政の内容を問うている。問 2 は「デフレの長期化」の「影響」を、グラフを用いて問うているが、誤りの「関税収入額」は明白であろう。問 3 は資料の読解力を求めた設問。問 4 はビゴーの風刺画を用いた設問。問 5 はグラフ・地図・表の読み取りを前提に、イギリスが利益を得ることになった下関条約の条項を選ばせる設問で、情報の選択能力が問われている。全体には、単純に歴史知識を問う問題は少なく、思考力・判断力を問う姿勢がみられる。
第 6 問 ( 21 )	近現代総合問題	7	近現代における時代の転換点	問 1 は夏目漱石に関する説明を選ばせる設問。問 2 は日露戦争に関する異なる捉え方について、その根拠を問うている。問 3・問 6 は空欄補充問題であるが、単語ではなく文を選択させている。問 4 は、選択肢はすべて正しい内容であるが、設問の要求にフィットするものを選ばせるという設問。問 5 は、生徒が発表するために作った図に該当する事項を入れさせる設問。問 7 は時代の転換点と考えられる歴史的事象とその理由の組合せを選ばせる設問で、複数解答になっている。総じて、単純に歴史知識を問う問題は少なく、多面的・多角的に思考力・判断力を問う姿勢がみられる。